



(様式第1号)

受付番号	江議第 6 号
受付日	平成 30 年 4 月 19 日
送付日	平成 30 年 4 月 19 日
答弁期日	平成 30 年 5 月 10 日
答弁受理日	平成 30 年 5 月 9 日

江田島市議会議長 林 久光 様

会 派 名 立風会

質問者氏名 胡子 雅信

文 書 質 問 書

江田島市議会基本条例第7条第4号の規定に基づき、次のとおり質問いたします。

【質問項目及び質問の内容】

* 内容は、一般質問として行う内容に相当する程度とし、その趣旨が理解できるよう具体的に記載する。

(1) 質問項目

県立大柿高等学校（以下、大柿高校）の活性化及び魅力化に係る支援策等について

(2) 質問の要旨

広島県教育委員会（以下、県教委）が平成26年2月26日に策定した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」に基づき、平成26年度に大柿高校活性化地域協議会（以下、協議会）が設置され、平成28年度までの3ヵ年、市及び市教育委員会も協議会の委員として高校活性化について協議してきた。

1. 3年間の活性化策実施後の平成29年度及び30年度において、2年連続して在籍80人未満となったことにより、今後、県教委は協議会の意見を聞いた上で、地理的条件を考慮した統廃合等を決定することになる。島唯一の高校は子育て世代のUIターンなど移住定住の促進には欠かせない「地域の宝」であり、市は存続に向けてどのように対応するか見



解を伺う。

2. 平成 27 年 10 月策定の江田島市総合戦略において、「縁」による地方創生プロジェクトとして、「時代への縁の継承」の項目に、新たな取り組みとして江田島市内唯一の高校の活性化支援による教育環境の確保がある。重要業績評価指標（KPI）として平成 31 年度の定員充足率を 66.7%（80 人）と設定した。主な取り組みとして、江田島市内の校種間（小・中・高・特別支援学校）連携の推進とあるが、具体的な施策の成果と課題について伺う。
3. 総合戦略の進捗管理について外部識者等で構成する審議会にて有効性の観点から検証を行い、また、必要に応じて見直すこととある。上記 2 について、審議会でのどのような検証を行なったのか伺う。
4. 平成 28 年度から大柿高校魅力化事業として、公営塾の運営及び県内外生徒の下宿代について補助金制度をつくった。補助金を交付する主体として、公営塾の運営実態及び課題などを把握しているか。また、効果的な事業がなされているか関係機関（高校、育てる会、同窓会、講師など）との意見交換等を行なわれているのか伺う。
5. 市内 4 中学校からの大柿高校への進学者数及びその他（他の高校進学含む）、卒業生総数について別紙の形式でご回答をお願いします。
6. 平成 29 年度から始まった定住促進通学費支援事業（ワクワク検証事業）は学校の種類や定期券購入者の住所などは問わない。平成 29 年度（月平均）および平成 30 年度（4 月申し込み）の学割バス利用実態を航路・校種・居住（江田島市内・市外）別にご教示願います。また、大柿高校生徒のバス及び航路の学割バス利用者実数も併せて伺う。
7. 平成 28 年度採用として大柿高校の魅力アップ事業に関わる地域おこし協力隊を募集したが採用までに至らなかった。高校魅力化先進地（大崎上島町）では学校と地域関係者との連絡・調整など、魅力化施策全般について魅力化推進コーディネーターが重要な役割を担っている。高校の魅力化事業における市の更なる支援策として人的支援の再検討をすることはできないか。

(3) 答弁期日を指定する理由（議長指定以外の場合に必ず記入すること。）

(別紙)

質問 5

(人)

		H25	H26	H27	H28	H29
江田島中	大柿高校進学					
	その他					
	卒業生総数					
能美中	大柿高校進学					
	その他					
	卒業生総数					
三高中	大柿高校進学					
	その他					
	卒業生総数					
大柿中	大柿高校進学					
	その他					
	卒業生総数					

(参考) 大柿高校の生徒数及び地元 4 中学の生徒数

	H25	H26	H27	H28	H29
地元中学 3 年生生徒数	190	168	154	150	152
新入生人数	32	24	26	21	33
地元中学からの新入生	29	22	23	17	26
地元入学率	15.3%	13.1%	14.9%	11.3%	17.1%
全校生徒数	68	65	74	68	78

※大柿高校平成 29 年度経営計画から抜粋。

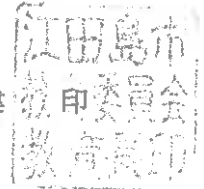


(様式第2号)

平成30年5月8日

江田島市議会議長 林 久光 様

江田島市教育委員会 教育長 御堂岡 健
(担当部局 : 学校教育課)



文 書 質 問 答 弁 書

江田島市議会基本条例第7条第4号及び第5号の規定に基づく議員の文書質問については、
次のとおり答弁いたします。

(1) 質問項目

県立大柿高等学校（以下、大柿高校）の活性化及び魅力化に係る支援策等について

(2) 答弁内容

別紙のとおり



県立大柿高等学校（以下、大柿高校）の活性化及び魅力化に係る支援策等について

1 存続に向けての対応

大柿高校が統廃合となった場合、本市の中学生は、市外の高校への通学しか選択肢がなくなります。その結果、本市の生徒が高校に通学するには、生徒や各家庭において、通学時間や通学経費に大きな負担が生じることとなります。また、高校生と地元のつながりが希薄になることが予想されます。さらには、他地域からの定住促進にも悪影響を及ぼす恐れがあるとともに、既に在住している子育て世帯の転出要因として働く可能性もあります。

このため、存続に向けた取組を今まで以上に大柿高校と二人三脚で着実に行って参ります。たとえば、通学費、公営塾、下宿代の補助など、学校の活性化につながる様々な取組を引き続き行うとともに、さらなる支援を行いたいと考えております。

2 江田島市内の校種間（小・中・高・特別支援学校）連携に係る具体的な施策の成果と課題

取組内容としましては、授業研究交流（各校の公開研究会に相互交流）、中高生徒交流（中高生徒会執行部生徒による交流：ユニセフ募金）、進路指導の充実（各中学校における大柿高校説明会、全中学3年生参加のオープンスクール、高校教員による出前授業）、合同地域ボランティア（小中連携、中高連携）を実施しております。

成果としましては、中学と大柿高校との一体感ができつつあります。大柿高校は、授業、行事等の様子を各中学校に発信することができ、大柿高校の教員は各中学校の現状把握を、各中学校の教員は、大柿高校の現状把握を行うことができました。また、教員の交流が進み、お互いに率直に指導に対して意見が言える関係ができたと考えております。

生徒間の交流についても生徒会を中心に広げることができました。そのことで中学校生徒の大柿高校への興味を高めることができました。

複数回の高校説明会やオープンスクールに市内全中学校の3年生が参加しております。中学2年生を対象にした大柿高校教職員による出前授業等を実施することで、各中学校及び大柿高校が進路指導を工夫し、充実させることができました。

合同地域ボランティア活動として、小学生（大古小・柿浦小）、中学生（大柿中）、高校生（大柿高校）、保護者、及び地域の方々とで清掃活動を行いました。協力して活動することで連帯感を育てることができたと考えております。

課題としましては、さまざまな活動は実施しておりますが、江田島市内の中学校から大柿高校へ進学するという自然な流れはまだできておりません。さらに大柿高校の現状を中学校生徒や保護者に正確に認識していただく必要があると考えております。また、生徒同士の連携については、単発に終わりがちとなっているので、継続した取組が必要であると考えています。

3 審議会における検証について

総合戦略策定後の外部委員による検証の場（「江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議」）としては、2回実施しております。

1回目は平成28年10月25日で、大柿高校は最近よく頑張っているという評価とともに、高校の進路指導の強化と高校の特色づくりについての提言がありました。

進路指導については、大柿高校において取組を充実され、平成28年度、平成29年度卒業生の進路未決定者はゼロとなっています。また、平成28年度卒業生に、大学進学者はいませんでした。平成29年度卒業生には大学進学者が3名おりました。

なお、特色づくりについては、学校・民間・行政の連携のもと、サッカー部・カヌー部の新設、グラウンドの芝生化、大柿高校を舞台としたイベントの開催（ヒロシマMIKANマラソンや柿高フェスタ）、公営塾や下宿代の運営などの取組を実施しております。

2回目は平成29年11月14日に実施し、平成29年度当初の大柿高校の全校生徒数が77名で、目標とする80名確保に近づいていたため、大柿高校については論点としてあがっていません。

4 公営塾の運営実態及び課題の把握

運営実態については、大柿高校からの報告書等により把握しております。公営塾に通っている生徒は自分の目標を達成するため、真面目にがんばっています。また、常時10名程度の生徒がさまざまな課題に取り組む中、講師は1名で指導されています。よりきめ細かな指導をするためには、講師の増員や補助講師などの強化策が必要かと思えます。

なお、関係機関が一同に介しての意見交換は実施していませんが、個別の聴き取りや塾の見学などを実施し、課題発見や状況把握には努めています。

5 市内4中学校からの大柿高校への進学者数及びその他

(単位：人)

		H25	H26	H27	H28	H29
江田島中	大柿高校進学	8	5	8	3	9
	その他	51	52	60	40	37
	卒業生総数	59	57	68	43	46
能美中	大柿高校進学	5	2	4	4	5
	その他	63	52	33	49	45
	卒業生総数	68	54	37	53	50
三高中	大柿高校進学	1	0	0	0	0
	その他	12	7	22	12	17
	卒業生総数	13	7	22	12	17
大柿中	大柿高校進学	15	15	11	10	12
	その他	36	34	22	31	25
	卒業生総数	51	49	33	41	37

6 学割バス利用実態及び大柿高校生徒のバス及び航路の学割バス利用者実数

- 平成29年度の当該制度の利用者実数は次の表のとおりです。なお、航路別の利用者実数については、航路事業者の経営状況に関する事項であるため、回答を差し控えさせていただきます。
- 大柿高校の生徒については、平成29年度は、広島方面から5名、呉方面から2名の利用がありました。うち、航路とバスの両方で当該制度を利用した生徒は呉方面からの1名でした。
- 利用者実数については、補助金実績報告書の添付資料を基にカウント作業を行っておりますので、平成30年度の実況については現在把握しておりません。

(単位：人)

利用者の区分	利用者実数 (航路)	利用者実数 (バス)	利用者実数 (同一人が航路・バス両方を利用した場合の重複を除いたもの)
小学生	5 (0)	0 (0)	5 (0)
中学生	17 (0)	9 (0)	24 (0)
高校生	351 (7)	28 (1)	351 (7)
大学生	87 (0)	3 (0)	87 (0)
専門学校その他 (不明含む)	104 (33)	4 (0)	107 (33)
計	564 (40)	44 (1)	574 (40)
月平均	47.0 (3.3)	3.7 (0.1)	47.8 (3.3)

※ () 内は市外居住者の利用者実数

大柿高校のバス利用に関わって、バス定期代2分の1補助の利用者数は、以下のとおりです。

年度	H26	H27	H28	H29
人数 (人)	5	14	15	24

7 人的支援の再検討

平成27年度、平成28年度の2ヵ年連続して地域おこし協力隊（魅力化推進コーディネーター）を募集しましたが、双方のマッチングが上手くいかず、採用までには至りませんでした。

魅力向上のためには、大柿高校生徒の学力向上をめざし、教育内容の充実を図ること等が重要であると考えます。大柿高校の方針と擦り合わせを行いつつ、人的支援も含め、さらなる支援の強化策を検討してまいりたいと考えております。